

マスタード栽培試験（４年目）

1. 目的

播種時期と生育の関係を調査する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 供試品種 ブラウンマスタード（品種名不明）（企業提供種子による）

イエローマスタード（品種名不明）（同上）

(2) 供試面積 100 m²

(3) 耕種概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日	収穫日
沖積土	壤土	緑肥作物 (ソイルセーバー)	66 cm×5 cm 30 本/m ² 目標	条播（ごんべい ベルト 103）	5/9 6/9	8/10・19 9/2・12

施肥量(kg/10a)				
とうもろこし2号	窒素	燐酸	加里	苦土
50 kg	4.0	11.0	5.8	2.8

4. 生育および収量調査結果

(1) 生育及び作業ステージ

種類	播種月日	出芽期	開花始	成熟期	収穫期
ブラウン マスタード	5/9 6/9	5/15 6/12	6/22 7/11	8/10 9/2	8/10 9/2
イエロー マスタード	5/9 6/9	5/14 6/11	6/17 7/8	8/16 9/12	8/19 9/12

※成熟期は主茎の 1/3 程度の位置に着生する莢内種子が 70%程度本来の色に達した時期とした。

(2) 生育調査 (成熟期)

草丈(cm)

種類	播種日	
	5/9	6/9
ブラウン マスタード	185	145
イエロー マスタード	172	148

m²当り莖数(本/m²)

種類	播種日	
	5/9	6/9
ブラウンマスタ ード	30.8	41.2
イエローマスタ ード	21.7	22.0

(3) 収量調査 (9/28) ※参考値扱い

種類	播種月日	粗収量 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	製品割合 (%)
ブラウン マスタード	5/9	29.3	25.0	85.3
	6/9	8.1	7.2	88.9
オリエンタル マスタード	5/9	87.6	73.6	84.0
	6/9	70.2	61.8	88.0

- ① 5月播種は、菌核病が激発したが、特にブラウンマスタードは折損等の被害が大きく、著しく低収となった。
- ② 6月播種は、ブラウンマスタードに主莖の腐敗が多発した影響で、著しい低収だった。
- ③ 6月播種は5月播種に比べて生育期間が短縮し、草丈が短く倒伏は少なかった。また、菌核病の発生も見られなかった。
- ④ 5月播種の収穫物に菌核が混入し、風選等で除くことは困難だった。
- ⑤ 収穫物の品質評価では、一般生菌数・大腸菌群数が多く、食品としての利用は困難とのコメントがあった。

6 考察

- ① 栽植本数の目安は30本/m²が適当と考えられるが、地力や前作の影響で生育が旺盛となりやすく、施肥量の調整が難しい。
- ② 3カ年の栽培中2カ年で菌核病が多発しているが、菌核病に登録を有する薬剤が無い。防除体系は不明。
- ③ ブラウンマスタードの密植条件で主茎の軟化枯死が生じるが、原因不明であり、実際栽培での対策が課題となる。
- ④ 既存の輪作体系に組み込む場合、基幹作物との作業競合を避ける栽培時期を検討しなければならず、収穫調整の体系整備も必要となる。



6月13日 6月播種出芽期頃



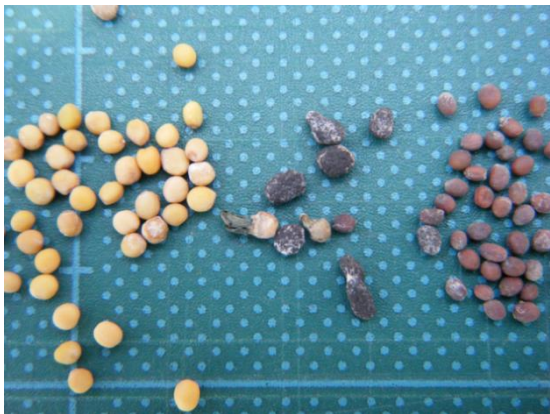
7月8日 6月播種開花始頃



主茎軟化腐敗(ブラウンマスタード6月播種)



菌核病(ブラウンマスタード5月播種)



生産物に混入した菌核